

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 静岡大学教育学部附属島田中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒427-0041
静岡県島田市中河町 169
 E-mail : oshimada@ipc.shizuoka.ac.jp
 Website : http://www.shimachu.ed.shizuoka.ac.jp/
 児童生徒数：男子 168 名 女子 193 名 合計 361 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 担当者 ※公表しません

職名：指導教諭
 氏名：早馬忠広 ((男)・女)
 E-mail :

※学校の共用メールアドレスをご記入ください。共用メールアドレスがない場合、個人メールアドレスでも可。

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

① 沖縄修学旅行における平和学習

ひめゆり祈念館前での平和集会、平和ガイドの案内によるガマ体験、平和祈念資料館訪問、米軍基地見学

② 総合的な学習の時間

D I Gを用いて、防災意識を高めるとともに、批判的な思考力を養う活動。

③ 家庭科

「コンビニ弁当から考えるフードマイレージ」の授業をおこない、食育や国際理解について考えさせた。

④ 技術科

「チンゲンサイの栽培」から持続可能社会について考えさせる授業。

⑤ 音楽科

和文化理解を深めるために「箏」の授業をおこなった。

⑥ 英語科

英語におけるコミュニケーション能力の育成のために「Let' s Introduce Our Imaginary Friends」と題して、自分の好きな国の友達を設定し、その国の特徴を交えて英語で紹介する授業をおこなった。

⑦ 社会科

インドネシア教育大学と附属中学校との交流をおこない、国際理解に役立てる授業を展開した。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
 時間外活動の時間を使用
 ユネスコクラブの活動として実施
 その他()

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

- 紙媒体の参考資料(新聞、出版物など) CD-ROM 写真
 その他()

平成25年度 ESD・ユネスコスクール研修会(2014年2月18日)の実践報告書から一部抜粋して載せます。

・ 沖縄修学旅行における平和学習

本校3年生の修学旅行先は、伝統的に沖縄である。沖縄では、地元の方々のお宅に民泊し、沖縄の生活や文化に直接触れる。その中で、静岡県ではできない体験や、学



ぶことのできない歴史に触れることになる。これは、生徒の自国に対する考え方に揺さぶりをかけ、多くのことを考える機会となる。特に、ひめゆり祈念館前でおこなわれる平和集会では、元ひめゆり学徒隊の方を前に平和宣言をし、ひめゆり学徒隊の皆さんが歌うはずであった「別れの曲」を3年生120人で歌う。涙を流しながら歌う生徒もおり、現在の日本だけでなく、世界の平和について考えるまでに成長する瞬間である。この年は、NHK 沖縄などのテレビ局やラジオ番組にも取り上げられ、沖縄の方々からも学校に声が届くなど、生徒には非常に意味深い学校行事となった。

・英語科における「Let's Introduce Our Imaginary Friends」の授業

異文化理解を目指し、国際交流を進めていくのに欠かせないのが、コミュニケーション能力である。その力を育成するために、「Let's Introduce Our Imaginary Friends」と題して、自分の好きな国の友達を設定し、その国の特徴を交えて英語で紹介する授業をおこなった。教科書で学習する内容をおさえた上で、活用の授業をして設定したのが、この授業である。想像上の友人を紹介するので、自分の使いたい英語を使って説明でき、恥ずかしがることなく進められた教材である。授業で学習した内容を活用し、発信するので、知識の定着にも役立った。



・社会科 インドネシア教育大学交流プログラム

この交流は、静岡大学教育学部と共同でおこなったものであり、ここではこの交流プログラムの経緯とそこで得られた成果について述べたいと思う。

交流プログラムの流れは以下の通りである。

7/23 (火) 「地域研究」における講義 教育学部国際理解教育専攻3年生対象

「インドネシアと日本の多文化共生を題材とした授業づくり」

9/19 (木) ~29 (日) インドネシア教育大学訪問・授業実践

12/ 5 (木) 附属島田中学校における授業実践に向けた事前指導

12/ 6 (金) インドネシア教育大学の学生5名による、附属島田中学校3年生・2年生対象の異文化理解授業

12/10 (火) 静岡大学教育学部・インドネシア教育大学の学生による、附属島田中学校1年生対象の授業

①静岡大学の学生への事前指導

静岡大学の2年生が、インドネシアに行って授業をするにあたり、その準備段階から関わる事ができた。今回の交流プログラムは、学生が3グループに分かれて、作業を進めており、「インドネシアの出稼ぎ」「マイノリティとマジョリティ」「就労問題~インドネシアと日本の農村と都市での就労の差異」というテーマが候補に挙がっていた。インドネシア社会を客観的に見つめられる教材を開発する必要性を感じた。

②インドネシアでの大学・中学校との交流

「インドネシアの出稼ぎ」「日本の教育現場のマイノリティとマジョリティ」「インドネシアと日本の、農村と都市の暮らし」の3テーマで授業に臨むこととなった。このような交流が日本の大学生にも大きなメリットをもたらすことを理解した。私たちが目にしたインドネシアの授業は非常に素晴らしいものであったが、他の教科などを見るとまだまだ課題が多いということを目にした。大学生育成という面でも、交流を深めていけば、両国にとってさらに価値のあるプログラムになると感じた。



③附属島田中学校での交流授業

12月にインドネシア教育大学の学生5名と教授3名が本校を訪れ、静岡大学の学生と共同で授業をおこなった。共同で授業をおこなう前に、インドネシアの学生単独で、12月6日（金）にインドネシアの文化などを紹介する授業を2時間やってもらった。1つは、社会科の授業で2年生を対象におこない、2つめは3年生の英語科の授業で、すべて英語を使ってのインドネシア紹介授業をおこなった。



- ・社会科「多民族国家について～イスラム教を中心として～」(2年A組対象)
- ・英語科「民族・宗教・服装などを中心テーマとしてインドネシアを紹介」

(3年A組対象)

この2つの授業を通して、すぐに変化が見られた。それは以下のものである

- ・教科書にはない生の声にふれることで、世界の国々や様子に、今まで以上に興味をもつようになった。
- ・異文化を理解しようとする姿勢が芽生え、その後の授業でも相手国をしっかりと



り理解した上で発言しようとする場面が増えた。

- ・語学への意識が変化した。

次におこなわれた、12/10（火）の授業は1年生を対象で、日本とインドネシアの学生が役割分担をして、共同でおこなった。これは、インドネシアでおこなった授業を日本版に修正しておこなったものなので、テーマはインドネシアでの授業と同じである。この授業では、「日本の社会事象を通して、インドネシアという他国を理解することができた。」「身近なところに、インドネシアという外国が存在していることを知ることができた。」という成果が見られた。



もう一つ、この交流授業で見られた成果がある。それは2つの授業をおこなう前にやった音楽科の箏の授業である。日本の文化を紹介するとともに、初めて外国の学生を受け入れるということで緊張していた生徒のアイスブレイクの意味でこの授業を設けた。この授業は、写真にもあるように、生徒が今まで学習してきた箏の弾き方を大学生に教えるという展開でおこなわれた。学習してきたことを、今度は自分たちが教える（紹介する）ということで、知識の定着に役立った。それと同時に、箏やその他の日本文化に興味を持って、質問してくるインドネシアの学生と接するこ



とで、日本文化の良さをあらためて感じるすることができた。また、質問に答えられない場面が多くあり、自分の国の文化をもっと知らないといけないという感想を持ったようである。この後、日本文化の良さや価値に興味をもって、授業に取り組めるようになったのは言うまでもない。